

●MM/MC対応 ●入力インピーダンス:4Ω、40Ω(MC・切替)、47kΩ(MM) ●使用真空管:PCC83×4 ●寸法/重量:W235×H100×D290mm/6kg ●問合せ先:麻ヨシトレーディング ☎050(3375)3975

EAR
EAR 88PB
¥689,000



賞揚すべき逸品。ハーモニーがひたすら心地よい
EARの最高級フォノイコライザーアンプ。可変出力も搭載

山本浩司

管球アンプ製作の鬼才、ティム・デ・パラヴィチーニが主宰するEARの最新フォノイコライザー。同社製品のクローム仕上げのレトロ調デザインは筆者の好むところではないが、過去テストしたEAR製品のパフォーマンスに落胆させられたことはなく、本機も筆者の期待を大きく上回るすばらしい音を聴かせ、おおいに賞揚すべき名機、逸品だと確信した次第。

本機はスタジオユースを主目的としたブレイバック用管球式プリアンプとして名高いEAR912の内蔵フォノステージを独立させ、同社フォノイコライザーの最高級機として開発された製品。MC×1、MM×1の2系統の入力を持ち、MC入力にはパラヴィチーニの手巻きコイルをベースに設計された昇圧トランスが採用されている。

ホルボーンのアナログ2MkIIにベント・マイクロACE S(Lタイプ)を取り付け、最初は本機のボリュームを最大とし、XLRバランス出力をアキユフェーズC3800につない

でMC入力の音を聴いてみた。イーグルスの「ならず者」(73年)の厚みのある鳴り感のよいアコースティックギターの乾いたひびき、消え際の美しいヴォーカル・ハーモニーがひたすら心地よい。切なさを内に秘めたドン・ヘンリーのヴォーカルの情感の深さにもこの製品ならではの魅力を発見した。

C3800をはずし、ダイレクトにパワーアンプのアキユフェーズA65につないで本機のボリュームを用いた音を聴いてみると、よりいっそうこの製品の聴き味のよさが浮き彫りになる。「エリントン&ホーキンス」(62年/インパルス盤)は、C3800経由の音に比べて、ホーキンスの豪放なテナーがより艶っぽくひびき、陶然となつて聴き惚れる結果に。また、ナット・キング・コールの45回転重量盤「ザ・ヴェリー・ソウト・オブ・ユー」で聴ける甘やかなヴォーカルも、パワーアンプ・ダイレクト接続のほうがより生々しく色っぽい。ストリングスの華麗なひびきにもいっそう実在感が付与される印象だ。

最近のアナログ関連イクイップメントには好製品がひしめくが、そのなかでもひととき光彩を放つフォノイコライザーであることは間違いない。その濃厚な音の味わいを堪能し、EARますます好調の意を強くした。